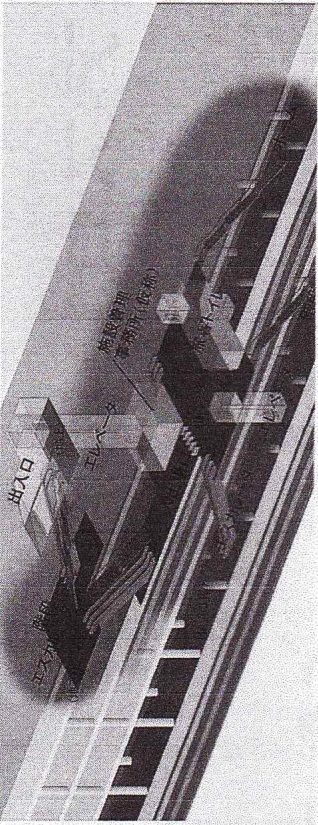


田園都市

川崎



リニア中央新幹線の地下駅イメージ図 (JR東海提供)

JR東海や県などは24日夜、リニア中央新幹線の説明会を川崎市麻生区の市麻生市民館で開き、約570人が集まった。県内説明会は昨年8月の相模原市に次いで2回目。同社は相模原

リニア駅ホーム地下3階

JR東海 ルート、位置「秋頃公表」

市の橋本駅周辺に建設予定の地下駅構想を発表したが、走行ルートや駅位置の詳細などは「秋頃に出す環境影響評価準備書の中で公表する」とした。

同新幹線は2014年度着工、2027年に東京―名古屋間で開業予定。新駅の大きさは長さ約1き、幅約50拵。地上出入口は1か所で、地下1階は地元自治体、民間企業などの負担で公共、商業施設に利用できる。地下2階はトイレや改札口、機械室。乗降ホームは地下3階。同新幹線は事前予約の全席指定席で、駅に切符売り場はない。

質疑応答では「電磁波や騒音、振動の影響は」「地震、火災の際は安全か」「ルート上の土地は地価下落が懸念される」など質問が相次ぎ、予定時間を大幅に延長した。

市民団体「リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡

会」の天野捷二共同代表は「相変わらず肝心な所を明

らかにしていない。リニアが通過する地域の住民にはメリットがないと述べた。JR東海の宇野護・中央新幹線推進本部長は「東日本大震災の経験を踏まえると、東海道新幹線を含め、2系列の輸送路が必要だ」と強調した。

リニア都市部地下40mを走行

JR東海
川崎、町田市で説明へ

二〇一七年開業を目指すリニア中央新幹線でJR東海は、品川―名古屋(約百八十六き)の約八割をトンネルとし、うち都市部は鉄道として初めて「大深度地下利用法」の適用を受け、四十以上の地下深くを走行するとする計画の概略をまとめた。川崎市で二十四日、東京都町田市で

三十日開く地元説明会で紹介する。

JR東海は東京から神奈川、山梨、長野、岐阜、愛知各県を横断、南アルプスを東西に貫通する直線的なルートで着工を検討している。

約八割が山岳や地下のトンネルを走行、東京や愛知ではほとんど四十以上の地下にトンネルを通す計画だ。大深度地下利用法が適

用されると、地下四十以上であれば地上の用地買収や事前の補償の必要がなく、スムーズに着工できる利点がある。トンネルは直径約十三拵で設計、この中にガイドウェイと呼ばれるU字形の軌道を上り、下りそれぞれ設置する。

また避難用として、トンネルと地上をつなげた非常口を五きごとに設ける。非常口は直径二十、四十拵の立て坑で、避難階段と非常電源付きエレベーターを併設する。

JR東海は「走行中に発生する磁力は、国際的なガイドラインにより、地表の住民の健康に悪影響は与えないと証明されている」としている。



リニアの地下構造のイメージ

トンネルの断面

東京新聞 2013 7/24 (木)